

# リフリート工法質疑事項

①通常、RF仕様とDS仕様とでは、どちらの工法を用いるのか。中性化と塩害とで使い分けるみたいですが、どこでそれを判断するのですか。当社は市街地での柱や床版の断面修復が多いのですが、基本仕様はどちらで考えたらいいのでしょうか。

中性化、凍害、火害が原因の場合RF仕様 塩害が原因または鉄筋腐食した部分に研りが不可能(鉄筋裏等)な場合DS仕様で。市街地での柱、床板では基本仕様はRF仕様です。

②脆弱部研り撤去後の清掃は高圧水で清掃とありますが、現場によっては水を使つての清掃ができない場合が多いと思います。ブラシやエアーでの清掃だけではいけないのでしょうか。

ブラシやエアーでの清掃だけでも問題ありません。(標準施工要領書参照)

③各種材料の可使時間、硬化時間および次工程へ移る際の養生期間・基準はどのくらいか。

①RF100 翌日②DS400 12～24時間程度(環境による・水光りがなくなるまで)③防錆ペースト直ちに～40分程度 ④断面修復7～14日(環境による) ⑤防錆ペースト

④RFモルタルで埋戻し後、下地調整の防錆ペーストパウダーは塗らないといけないのか。RFモルタルで完了ではないのか。また下地調整を塗り込む場合の塗り範囲はどのようにして決めるのか。

基本的には塗布するが、仕上げ材の種類がタイル、リシンは不要

⑤仕上げ材による表面仕上げは必要か。

建築の場合設計図書にもよりますが、基本的に仕上げ処理を施します。

⑥調査後、補修方法を選定するにあたって、中性化・塩害・凍害等の区別をどのようにするのか。なにか選定方法があるのか。

中性化はフェノールフタレインの試験で研り幅を決定しRF仕様。塩化物イオン含有測定で研り箇所・深さを決定しDS、DS-HG仕様。一般的には市街地等はRF100 山岳部、沿岸部はDS仕様

⑦RFモルタルパウダーとRF厚付パウダーの使用条件の違いはなにか。

当初はRFモルタルのみでしたが、厚付けをし易いようRF厚付モルタルを改良してますので、現在はRF厚付モルタルの方を推奨しています。

⑧RFモルタルパウダーの塗り重ねは6mmとなっているが、当日作業で何層も塗り重ねが可能か。塗り重ねが可能な場合、その条件は何か。

⑦のとおり、今はRF厚付モルタルを使用します。その場合でも、一層目は下こすり度6mm程度、その後最高厚で30mmまでとし、それ以降は翌日。また塗り重ねする場合は、水湿しか吸水調整材を使用する(当社品では大平洋エフェクトA)

⑨RFモルタルパウダーは、天井塗りと壁塗りとで一回に塗れる塗り厚に差はあるのか。どちらも6mmまでなのか。

基本は6mmですが天井面は断面の大きさでは4mm程度となります。

⑩各材料においてプライマーは必要でないのか。

コンクリートのはつり面には、RF防錆ペーストを前面に塗布します。よって基本的には不要です。⑧と同じように断面修復で塗り重ねの場合は吸水調整材等を使用する。

⑪RFモルタルパウダーにもいろいろ種類があるが、他各種材料においても種類が存在するのか。その施工用途の差は何か。

一般的にはRFモルタル、RF厚付モルタル 吹付けはRF厚付モルタルSP 型枠充填にはコンフロード 微細なクラックでの注入は大平洋スラリー 耐摩耗性を要求される場合はTMモルタルハード 亜硝酸リチウム入りのスペックにはAK厚付モルタルKT

⑫RF・DS仕様 標準施工要領書の中でコンクリート含水比の規格値が、中性化抑制工法で7%、他では8%となっているが、なぜ規格値が変わっているのか。

一般的には8%以下とされてますが、RF100の場合は含水率が高い場合に含浸量が減少します。よって7%以下としております。